

「妊娠、出産、子育てを戦い抜く」

エコチル調査サポーター代表第1号のジャガー横田さんと、そのご主人で医師、大学教授でもある木下博勝さん。お二人にお話を伺いました。

ージャガーさんには3年前のキックオフイベントで、サポーター代表として環境省に来ていただきました。

ジャガー横田：その当時、子どもを産んでまだそれほど経っていませんでしたし、高齢出産ということもあって、声をかけていただいて参加することになりました。

ーエコチル調査に参加いただいている方の出産年齢を見ると、40歳以上は4%程度なのですが、45歳以上になると0.1%以下になっています。

ジャガー横田：1,000人に1人ですか。すごい！私のブログにも40歳を過ぎて出産されたという方がコメントを下さるんですよ。

ー木下さんは、大学ではどのようなことを教えていらっしゃるのでしょうか。

木下博勝：養護教諭をめざしている学生に、簡単な内科学や解剖生理学、公衆衛生学などを教えています。実はエコチル調査についても教えていて、テストにも出しています。母親と子どもは一体として対象となっていたものは多いと思いますけど、エコチル調査は父親も参加しますよね。ここをよくテストに出すんですよ。ボクはこれが良いなって思っています。父親も当然質問票の内容を見ますし、興味を持ちますよね。

ージャガーさんがプロレスの道を選ばれたきっかけは？

ジャガー横田：特にプロレスに憧れていたわけではなかったんです。私は4人姉妹の末っ子で、長姉は既に結婚して、子供を産んでいました。それを見て、大変そうだな、私にはできないな、と漠然と思っていました。親に負担がかからないように早く社会に出たいということもありました。それで、当時人気だったプロレスを見たときに、「できそう」という直感があって、たまたまその日に募集が出ていたので応募したら、受かってしまった。だから、深くは考えてはなかったんです。入ってからは、学歴もないので辞めるわけにもいかず、とにかく首にならないように頑張ろうと思ってやってきた結果、いつのまにかチャンピオンベルトを巻いていた、ということです。それからは、負けたら辞めなくてはならないので、防衛していくために練習…と繋がって

きました。辞めるとか、イヤということは一度も思わなかったですね。

－お客さんを喜ばせるという、プロレスならではの苦勞もあるのでは。

ジャガー横田：自分のスタイルを貫くのが私のパフォーマンスだったので、芸を見せるというよりは、プロレスの基本を見せる、魂を見せるという、「女猪木」みたいな雰囲気醸し出してきたんじゃないかと思っています。小さくても負けないぞという気持ちを持っていたら強くなれるんだよとか、あきらめなければここまでできるんだよということを、プロレスを通して皆さんに伝えてきたつもりです。今も現役を続けていますが、それはファンを励ますということもありますが、私自身も元気が出るんです。

－ケガをされたことは？

ジャガー横田：ありますが、気力で「大丈夫」と思ってやっています。ダメと思ったらダメなんですよね。

－木下先生はハラハラしながら見ていらっしゃるんですか。

木下：それがあんまりしないんですね。もう 36 年やっていますし、プロですから。ケガをしたとしても、病院へ行って治すのではなく、ジャガーのスタイルで治すんですね。医者としてのアドバイスも、余り的確ではないというか。レスラーと普通の人間とは精神力も違いますし、回復力も違うんです。素人がワーワー言ってもマイナスになるだけです。言うのは、血圧が高い、とかそういうことくらいですね。

ジャガー横田：外傷に関しては聞かないですし、この人も言わないです。

－木下先生がリングドクターをされていたというのは、やはりプロレスが好きだったからですか。

木下：よく勘違いをされるのですが、出会ったのは総合格闘技のリングドクターをアルバイトでやっていたときです。プロレスのリングドクターはほとんどやったことがなくて、興味もありませんでしたし、女子プロレスも見たことがありませんでした。プロレスが好きだとか彼女のファンだったということはないんです。

ジャガー横田：ファンだったら、きっとプロポーズなんてできないですよ。

木下：「奥さんに」とは思わないですよ。

ジャガー横田：「奥さんに」とは思わないとは失礼だよ！プロレスラーをなんだと思ってるの？(笑)

－妊娠に気づかれたときのことをお聞かせください。

ジャガー横田：妊娠がわかった翌月に、5試合入っていたんです。ポスターにも載っているし、これは休みたくないなあと思って、周りに内緒で出場したんですよ。もちろん彼には言いましたが、心配して、仕事を休んで全部付いてきてくれました。

－不安はなかったですか。

ジャガー横田：不妊治療をしていたんですが、治療中は全てのものをストップして、大事に大事にしていたんです。それにもかかわらず、結果的に上手くいきませんでした。これはストレスだなと思いました。プロレスをするのは私にとっては普通のことだし、自分らしくいようと。それで、この5試合だけはやりたいと主人に言ったら、「本当なら止めるべきだと思うけれども、あなたは言っても聞かないし」と、許したということとは違うかも知れませんが、見守ってくれました。なので、安心して試合をこなすことができました。

木下：不安でしたけど、妊娠中を通して心がけたのは、彼女らしくいてもらうということでした。例えば、寝る時間についても、早く寝なさいと言わずに、なるべく彼女の生活スタイルをそのまま続けるように心がけていたつもりです。

－お子さんのお名前（大維志（たいし）くん）について、お聞かせ下さい。

木下：「志をつないでいく」という意味で、二人で決めました。

ジャガー横田：「たいし」は聖徳太子とか弘法大師のような人物になってもらいたいという気持ちがあって、名付けたいと言っていたんです。どの漢字を使うかで喧嘩もしました。

－大維志くんは小学校1年生とのことですが、子育ての大変さは変わってきましたか。

ジャガー横田：生意気になりましたね。特にきかん坊だと思いますね。

木下：性格はジャガー似ですよ。

ジャガー横田：口答えするところはこの人に似ています。ああ言えばこう言うってところ。
(笑)

木下：だいぶ自分の意思も出てきて、納得しないとやらないんですよ。「何々をしなさい」とただ注意するのではなくて、自分が納得できるように説明しないと、なかなかやりません。ボクは特に「つ」が付く年、つまり八つ、九つ、ここまでが勝負だと思っているんです。それ以上になりますと、自我が出過ぎてしまって、注意してもあまり言うことを聞きにくいと思うんですよ。従って、今が勝負だなんて思って、靴を脱いだら

ちゃんと揃えるとか、朝起きたら「お父さんお早う」とちゃんと顔を合わせて言うとか、そう躰しているんですね。それでも毎日言わないとダメなんですよ。

ジャガー横田：ちょっと行儀が悪くて、言っても全然ダメなんです。難しいですね。

木下：お母さんの言うことは、あんまり聞かないんですよ。不思議ですよ。ボクの言うことは良く聞きますよ。

ジャガー横田：うるさいから合わせているだけ！いないところでブーブー文句言ってるよ。この人、ほとんど会っていないんです。

ーもっと小さかった頃は、木下さんの協力はいかがでしたか？

ジャガー横田：ほとんどないです。

木下：いや、やる気持ちはあったんですけど、現実的に時間的な問題ですよ。できる範囲ではやったつもりなのですが…そう評価してもらえてないみたいですね。(笑)

ー参加者の方へのメッセージをお願いします。

木下：こういう研究はどうしても欧米の後追いになることがあります、日本から成果を発信するということは、すごく誇れることですね。子どもの健康に対する環境の影響が分かれば、それを回避する手段、方法も検討できます。大事なことは、続けるということですね。どうしても途中でやめてしまう人はいるでしょうけど、大切な調査に参加しているという意識を持ってもらって、できるだけ多くの人に続けていただきたいですね。

ジャガー横田：本当にそうですね。自分の子どもの次の世代、さらにその子どものため、ということですからね。長期にわたる調査ですけど、最後まで参加していただきたいですね。

木下：一般の人にも、もっと「エコチル調査」という名前を知って欲しいですよ。

ジャガー横田：一つ一つ結果が分かってくれば、もっと浸透しますよね。最終目標とは違っても、知らなかったことが分かっただけで、安心したり、気をつけたりとかできますからね。私も調査に参加したかったのですが、妊娠したのが調査が始まる前だったので、残念ながらできませんでした。ですから、サポーターとして皆さんに協力を呼びかけています。将来のために、今土台を作っていくということです。子どもたちが健やかに育つ環境を作るために、一緒に頑張っていきましょう。